

第3回 高知港港湾脱炭素化推進協議会

1 日時

令和8年3月19日（木） 14:00～15:00

2 場所

高知県教育会館高知城ホール 多目的ホール（WEB 会議併用）

3 議事概要

（1）高知港港湾脱炭素化推進計画

1. 第2回協議会後の変更点について

事務局より、第2回協議会後の変更点について説明した。

2. 高知港港湾脱炭素化推進計画（素案）について

事務局より、高知港港湾脱炭素化推進計画（素案）について説明した。

3. 今後のスケジュール（案）について

事務局より、今後のスケジュールについて説明した。

4 意見・質問等

No.	発言内容
1	<p>【意見】 今回の素案については、本省港湾局において内容を精査している段階である。第4回協議会において内容が変更となる可能性があるため、あらかじめ承知いただきたい。また、本計画 P22 に記載の今後の取組については、現在「検討中」との記載が多く見受けられることから、より具体的な内容となるよう工夫してほしい。</p> <p>【回答】 了解した。今後検討していきたい。</p>
2	<p>【意見】 資料1については理解したが、今回、短期目標を2027年に設定している点については、野心的な目標であるとの認識でよいのか。あわせて、資料2における2027年の短期目標について、削減率を9%、排出量を172万tとしている一方で、短期的に削減が期待される取組の効果が目標値に対して不足している状況となっている。今後、追加的にどのような取組を検討していくのか教えてほしい。</p> <p>【回答】 資料1について補足する。計画における数値については、やや高めの設定となっているのではないかと指摘もあるが、資料1の3ページ下段の表に示すとおり、今回、ターミナル外における発電事業の控除に伴い、基準年である2013年度の排出量が少なくなっている。これを踏まえ、2030年度に向けては、2013年度比で47%削減という県全体のアクションプランを基にして、設定しており、そのうち港湾における各部門ごとの削減の考え方として、運輸部門（ターミナル出入）や産業部門（ターミナル内・外）ごとに削減率を指標として試算し、段階的にCO₂排出量を低減していく目標を設定している。この結果、数値としてはやや高い目標となっている可能性はあるが、2050年カーボンニュートラルの実現を見据え、このような考え方で整理し、計画として取りまとめているものである。資料2のP7および本編P22に記載のとおり、企業の取組の進捗を踏まえながら、目標値の達成に向けて進めていく考えである。なお、当該目標については、計画上の試算に基づき設定した数値目標である。</p>
	<p>【意見】 期間としては残り1年程度であることから、目標達成を加速化するためには、各企業さんの取組や県独自の取組が重要になると考えられる。そのため、今後フォローアップを行ってほしい。</p>
3	<p>【意見】 高知港は高知市内において浦戸湾という大きな内湾を有しており、当該湾は生物多様性が高い特徴を有している。このような特性を踏まえ、ブルーカーボン等の生態系を活用した吸収源対策について、長期的な視点を持って浦戸湾における取組を進める優位性もあると考えられるため、その点も考慮しながら今後の取組を進めてほしい。</p> <p>【回答】 須崎港では国土交通省により試験的な取組が実施されている。また、高知港においても沖合防波堤の背面で一部試験的な取組を行っているが、現時点では「検討中」として整理している状況である。高知港の今後の具体的な計画については現時点で明確に定まっていないが、漁業者さんとの調整も踏まえながら、引き続き検討していきたいと考えている。</p>
4	<p>【意見】 本編のP25に記載されている評価の事項について何かあれば説明をお願いしたい。</p> <p>【回答】 今後はPDCAを実行しながら取組を進めていく考えである。全体計画として、短期・中期・長期の区分のもと2050年までの計画を位置付けているが、これを単に継続するのではなく、CO₂排出量の削減具合を適宜確認しながら評価を行っていききたいと考えている。</p>